

# 組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名： **キャリア開発センター**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p><b>①教育領域</b></p> <p><b>①-1 目標</b></p> <p>1)キャリア教育科目の基盤ともいえるキャリア形成&lt;基礎講座&gt;の4科目についてポートフォリオを中心とした授業評価を行い、科目横断的に教育効果を分析する。</p> <p>2)前年度からキャリア形成&lt;基礎講座&gt;Iに導入した教科書の活用方法を提起し、その有効性を検証する。</p> <p>3)学生の正課外活動を継続的に支援するとともに、その支援の成果を検証する。</p> <p><b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>1)科目ごとのポートフォリオに基づいた教育効果測定結果 2)教科書の活用方法を提起した実践報告と質問紙に基づいた検証結果 3)正課外活動支援に関する実践報告と質問紙及びインタビュー調査に基づいた検証結果</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>1) &lt;基礎講座&gt;全4科目についてポートフォリオを活用した教育に取り組むことができた。さらに、科目横断的な分析を可能とする質問紙を開発し、授業前後にデータ収集を行った。このデータに基づき、科目横断的な教育効果分析指標を開発した。なお、現段階の分析結果については平成26年度年報によって報告した。</p> <p>2)教科書の活用方法については、事前に該当する内容を精読するように指示し、修得した内容に基づいて議論やグループワークを行う反転学習を主体とする授業を行った。また、前項の質問紙の中で教科書に関する要望を聴取し、ワークシート導入などさらなる改善の必要性を明らかにできた。</p> <p>3)校友会クラブを中心に継続的な支援を行い、学生の自主的な研修活動や広報活動、意識改革を促進する委員会を設置した。また、支援してきた各種の取組みについて質問紙を用いてフィードバックを行い、支援の成果の大きさを検証できた。なお、それぞれの結果については平成26年度年報によって報告した。</p>
<p><b>②研究領域</b></p> <p><b>②-1 目標</b></p> <p>1)教育領域と連動した検証結果を基にアクションリサーチとして学会発表や紀要にて公開する。</p> <p>2)キャリア教育によって獲得させたい能力概念を先行研究のレビューを踏まえて規定する。さらに、そこから当センター独自の能力概念及び構成要素を明示し、学会発表や紀要にて公開する。</p> <p><b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>1)関係学会における研究発表及び「大学教育研究」等の紀要 2)関係学会における研究発表及び「大学教育研究」等の紀要</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>1)正課のキャリア教育に関して、個々の科目特性にかかわらず、すべて共通であった評価項目を再検討し、共通評価項目6個と個別の授業の教育目標に応じた個別評価項目10個による新たな評価シートを作成したうえで後期より調査を開始した。単年度の分析結果は平成26年度年報によって報告し、次年度の調査結果を踏まえて教育効果についての検証を進める。</p> <p>2)当センターがキャリア教育によって獲得させたい能力概念について、学士力や社会人基礎力をはじめとした多様な能力概念に関する先行研究をレビューして、規定することができた。さらに、キャリア教育の各授業科目と各能力との関連性についても提示し、『大学教育研究』第10号で報告した。</p>
<p><b>③社会貢献(診療を含む)領域</b></p> <p><b>③-1 目標</b></p> <p>1)卒業生フォローアップセミナーを継続的に開催する。</p> <p>2)校友会クラブによる地域貢献活動を引き続き支援する。</p> <p>3)当センター学生企画チームによる地域貢献活動を引き続き支援する。</p> <p><b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>1)卒業生フォローアップセミナー実施状況報告書 2)校友会地域清掃活動、校友会自転車無灯火ゼロ運動、校友会ミュージックフェスティバル等の実施状況報告書 3)学生企画チーム 岡プロ!による各種地域貢献活動の実施状況報告書</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>1)東京地区における卒業生フォローアップセミナーについて、9月、11月、2月の3回実施した。参加者数は延べ40名を数えるようになり、定着化を図ることができた。各回の実施状況は報告書にまとめ、平成26年度年報で報告した。</p> <p>2)校友会クラブによる地域貢献活動としての地域清掃活動と自転車無灯火ゼロ運動、音楽イベント開催を引き続き支援した。地域清掃は13町内で実施し、自転車無灯火に対する呼びかけは冬季3か月間実施、10月にはミュージックフェスティバルを開催した。これらの活動について平成26年度年報と併せて第2回校友会リーダー研修会で報告した。</p> <p>3)学生企画チームによる地域貢献活動として、年間20回の児童向けイベントを天満屋や学童保育所へ赴いて開催した。また、12月のイルミネーション企画を主催して、地域に発信するイベントを開催できた。これらの活動を支援するとともに、平成26年度年報によって報告した。</p>
<p><b>④センター業務</b></p> <p><b>④-1 目標</b></p> <p>1)各学部・研究科毎の就職ガイダンスを継続的に開催する。</p> <p>2)就職支援及び活動状況把握を中心とした各学部・研究科との情報共有を図り連携を深める。</p> <p>3)校友会組織の体制強化及び研修内容の充実を図る。</p> <p>4)就職支援につなげるために、Alumniと連携して同窓生ネットワークの強化を図る。</p> <p><b>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>1)就職ガイダンス実施状況報告書 2)就職状況報告書及び各学部との懇談記録 3)校友会組織支援状況報告書 4)同窓生ネットワーク構築のための活動報告書</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>1)全学就職ガイダンス8回、就職支援事業13回、公務員支援事業9回を実施し、就職宿泊やインターン等の行事は26年度年報に、ガイダンス、セミナーは実施状況をホームページで公開した。また、学部ごとのガイダンスは7学部で計15回実施し、文学部では教員FDとしてスケジュール変更に伴う就職活動についての研修会を行った。</p> <p>2)キャリア開発センター運営委員会を3回開催し、各部局ごとの内定状況についての情報共有を図るとともに就職支援に関するデータを26年度年報によって報告した。また、スケジュール変更に伴う就職活動の留意点については、全学ガイダンスを開催したうえで、工学部(情報)、理学部(物理)では学科ごとの学生に対して、文学部では教員を対象に説明会を実施した。</p> <p>3)校友会組織を強化するため、新たに総務委員会に広報委員と風紀委員を設置した。その結果、校友会ホームページ製作や実態調査等も実施できた。また、学生主体で6つの研修会を企画・運営することで当事者意識を高めることができ、特に重要視される第1回リーダー研修会では92%の参加率が得られた。これらの成果について平成26年度年報及び第2回校友会リーダー研修会で報告した。</p> <p>4)卒業生による就職支援活動を強化するため、本年度はAlumni東京支部設立支援、農学部同窓会東京支部設立支援を行った。また、Alumni東京支部の幹事会や情報交換会を、適宜東京サテライトオフィスを中心に開催した。Alumniの協力により首都圏プレインターンシップで学生と同窓生との交流を促進し平成26年度年報によって報告した。</p>
<p><b>【総括記述欄】</b></p> <p>教育領域においては、基礎・実践・演習の3領域で構成するキャリア教育の全科目で、ポートフォリオを活用した教育に取り組むことができ、各科目の教育効果分析を行った。しかし前期までは各科目に対して同じ質問項目のみの調査を行っていたため、それぞれの科目領域の特性も考慮した授業評価シートを作成し、調査を実施した。この分析結果をもとに28年度からの教養教育改革(全学ガイダンス含む)に向けたキャリア教育の再構築を開始した。更にそのための新たなテキスト作成を目指す。</p> <p>キャリア開発センター業務では、スケジュール変更に伴う就職活動の時期と内容の変化に対応した全学ガイダンスを実施し、昨年を上回る学生の参加を得て、3月からの本格的な就職活動を円滑に開始することができた。しかし、就職準備活動の遅れから上級生によるサポート体制が2月までとなっていたため、同年度の学生相互で支援しあうための就職サポートチームを設置した。今後はそれに加えて内定を得て就職活動を終了した学生の積極的な参加を促す。また、今年度開始した中四国国立大学合同企業説明会や4大学参加のグループワークなど、他大学との協力体制を更に推進していく。次年度の前期は授業と就職活動の両立や最終的な進路の決断時期が難しくなるため、各部局との情報共有を頻繁に行い、学生や学部からの問い合わせに迅速に対応するとともに人事担当者との調整可能な関係強化を図る必要がある。</p>	